

レポーター：こちらはどういう仏像なんですか。

学芸員：はい、これは日光菩薩といいまして手に不思議なものを持っていますが、蓮のお花の上に丸い、あれはお日様なんですね。世の中を照らすということをイメージする、そういった闇を照らすということをお仕事にされている菩薩の御像なんですね。で、この菩薩、日光菩薩というのは、月光菩薩といって月の光の菩薩と日光の菩薩とがペアになって薬師如来という仏像と、あの仏様と一緒に飾られるようになっています。薬師三尊といわれていますけども、この仏像は鎌倉時代に作られたもので、とてもあの、鎌倉時代というのは、本当に仏教が、仏教彫刻が非常に隆盛した優れた作品を生み出した時代でこの神秘的な美しさを持ちながらも、非常に肉体としてリアルな写実的な面も持っていてバランスのとれた美しい仏像じゃないかと思います。

レポーター：確かに指先だったりとか、お洋服の流れだったりとか、とても細かいですね。

学芸員：そうですね、繊細な髪を結びあげたときの形ですとか、とても繊細ですしそして目の中には玉眼といって、きちんと目が入れていますので、少し下から仰ぎ見るような形になると、どこかで目が合うというか、この仏様が見て下さるといった感じがすごくするんじゃないかと思います。

レポーター：確かにちょうど目が合ってるんですけど、ちゃんと黒目があるんですね。

学芸員：はい、ですね。

レポーター：そういうの珍しいんですか。

学芸員：玉眼を入れることはあるんですけど、そうして下から仰ぎ見て、私たちが礼拝する尊い仏様として、非常にこう仰ぎ見るときに、私たちも尊い気持ちで手を合わせる事ができる美しい仏像じゃないかと思います。

レポーター：こちらは福岡でずっとあった仏像になるんですか。

学芸員：東光院という博多区の吉塚にあるお寺が、お寺としては廃業いたしましたので、そこにあった仏像を福岡市にご寄贈されて、福岡市の寄贈になったので福岡市美術館でお預かりすることになりました。

レポーター：それじゃずっと、福岡の方とか守り続けてきた仏像になるんですね。

学芸員：そうですね。